

2025年度「県立川崎図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立川崎図書館の利用者の状況や傾向を把握。

■ 実施期間・配布について

アンケートの実施期間は2025（令和7）年11月25日（火）から12月1日（月）（※11月30日（日）を除く）の計6日間で、配布枚数は771枚、うち回収枚数は490枚となり、2024年の回収枚数430枚（配布枚数681枚）より、回収率は前年比100.8%となりました。

1 アンケート回答者の情報

1) 年代（第9表・第9図 参照）

- 「19歳以下」が144人（29.4%）と最も多く、「30代」が33人（6.7%）で最も少なくなりました。
- 2024年と比較して構成比の変化が最も大きかったのは「19歳以下」で、約15ポイント増加しました。昨年度のアンケートは10月下旬から11月上旬に実施したのに対して、今年度のアンケート実施期間は11月下旬だったので、期末試験と重なった影響もあり学生の利用が増加したものと推測できます。

2) 職業（第10表・第10図 参照）

- 「学生」が169人（34.5%）と最も多く、次点はKSP内在勤を含めた「会社員・公務員」146人（29.8%）となりました。「19歳以下」が増加したことに伴い、「学生」も2024年に比べて14ポイント増加しています。
- 2024年は最も多かったのがKSP内在勤を含めた「会社員・公務員」、次点が「学生」であり、それ以前も同様の傾向がみられましたが、2025年はそれが入れ替わる結果となりました。

3) 住所（第11表・第11図 参照）

- 県内在住者が全体の80%以上を占めています。県内の内訳では川崎市在住者が全体の72.2%となり、県立川崎図書館所在地の高津区在住者は全体の45.1%です。2024年と比較して県内在住者は約1ポイント、川崎市在住者は約1ポイント増加しました。
- 県外在住者は全体の5.9%です。2024年と比較して約3ポイント減少しました。

2 利用頻度について（第1表・第1図 参照）

- 利用頻度は「月に数回」が193人（39.4%）と最も多く、次は「週に数回」133人（27.1%）、「年に数回」99人（20.2%）となりました。来館者の85%以上がリピーターであり、定期的な利用が定着していることが伺えます。
- 2024年と比較して「月に数回」が5ポイント増加、「週に数回」が約3ポイント減少しました。

3 来館目的について（第2表・第2図 参照）

- 来館目的は「個人的な利用（趣味・自習）」が338人（69.0%）と最も多く、次は「座席の利用（自習・休憩）」124人（25.3%）、「仕事上の利用」108人（22.0%）、「専門書の利用」89人（18.2%）となりました。
- 2024年と比較して構成比の変化が大きかったものは「座席の利用（自習・休憩）」で、約5ポイント増加しました。このことについては、「19歳以下」の利用率が増加したことが要因であると推測できます。一方、「専門書の利用」は約5ポイント減少しました。
- 利用しているコンテンツ（選択項目③、④、⑤、⑥、⑦）では、「専門書」89人（18.2%）が最も多く、「専門誌・学会誌・新聞」41人（8.4%）、「社史」14人（2.9%）、「電子ジャーナル・データベース」5人（1.0%）と続いています。
- 利用しているサービス（選択項目⑧、⑨、⑩）では「座席の利用（自習・休憩）」124人（25.3%）が最も多く、「展示・講座・催事」5人（1.0%）、「調査・相談」4人（0.8%）については少ない構成比となりました。

4 県立川崎図書館の選択理由について（第3表・第3図 参照）

- 「家から近いから」263人（53.7%）が最も多く、次は「静かな環境だから」250人（51.0%）、「専門的な資料があるから」151人（30.8%）となりました。
- 2024年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「静かな環境だから」が約12ポイント増加、「専門的な資料があるから」が約5ポイント減少しました。

5 利用場所について（第4表・第4図 参照）

- 「個別閲覧席（キャレル席）」113人（23.1%）、「テーブル席（カウンター前）」101人（20.6%）、「カンファレンスルーム（臨時閲覧室）」90人（18.4%）が主に選択されています。
- 書架（選択項目①～⑤）で最も多く利用されていた資料の種類は「専門図書」80人（16.3%）で、2番目は「専門誌・学会誌」70人（14.3%）です。この傾向は2024年と同様です。
- 2024年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「カンファレンスルーム（臨時閲覧室）」が約4ポイント増加、「専門図書」が約4ポイント減少しました。このことについては、「座席の利用（自習・休憩）」が増加したことが要因であると推測できます。

6 利用時間について（第5表・第5図 参照）

- 「1時間未満」165人（33.7%）が最も多く、「1～2時間未満」104人（21.2%）、と続くのは2024年と同様ですが、次に多いのが「4時間以上」80人（16.3%）、「3～4時間未満」69人（14.1%）となり、この傾向は2024年と異なります。
- 2024年と比較して「1時間未満」は約9ポイント減少、「4時間以上」が約4ポイント増加、「3～4時間未満」が約4ポイント増加し、長時間の滞在が増加しました。

7 利用の成果（アウトカム）について（第6表・第6図 参照）

- 選択率の上位4項目は、「知識・教養が深まった」191人（39.0%）、「研究や調べものが進んだ」134人（27.3%）、「仕事に役立った」118人（24.1%）、「余暇を有意義に過ごせた」118人（24.1%）

です。

- 2024年と比較して、「余暇を有意義に過ごせた」が約8ポイント減少し、それ以外の項目が全て増加しました。当館の利用により仕事や研究での成果が得られたのではないかと推測できます。

8 満足度について

➤ 「全般的に見た県立川崎図書館の満足度」について（第7表・第7図 参照）

- 「満足」（67.3%）、「どちらかといえば満足」（30.0%）を合計すると97.3%となります。2024年の「満足」（63.5%）と「どちらかといえば満足」（33.0%）の合計は96.5%でしたので、2025年は約1ポイントの増加となりました。昨年と同様に中央値は4を示しており、利用された方は現状に満足している傾向にあります。

➤ 「資料やサービスについての満足度」について（第8表・第8図 参照）

- 「満足」が最も多く選択された項目は「施設・設備」（71.0%）です。「どちらかといえば満足」（24.5%）との合計でも95.5%と最も満足度の高い項目でした。次点は「開館日・開館時間」（満足：53.0%、どちらかといえば満足：34.2%）です。
- 上記以外で「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が7割を超えた項目は、「職員の対応」（81.2%）です。
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が5割未満の項目は、「パンフレット・チラシ」（42.9%）、「電子ジャーナル・データベース」（40.9%）、「調査・相談」（35.2%）、「電子書籍」（34.6%）、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」（31.9%）です。

ただし、「満足」と「どちらかといえば満足」の選択率が低い項目において、必ずしも「不満」と「どちらかといえば不満」の選択率が高いわけではありません。それよりも「わからない」の選択率が高い傾向（67.6%から55.4%）にあります。満足度の低い項目は、認知度が低い、または利用経験がないため評価できないことを表していると考えられます。

- 「わからない」が5割を超えた項目は「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」（67.6%）、「調査・相談」（64.1%）、「電子書籍」（61.8%）、「電子ジャーナル・データベース」（56.5%）、「パンフレット・チラシ」（55.4%）です。
- 「不満」が最も多く選択された項目は「開館日・開館時間」（3.8%）です。「どちらかといえば不満」と合わせると11.0%で、上記のとおり、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が80%を超えている一方で、一部には不満があるという結果となりました。